

みえちやったりする

作・福田卓郎

■登場人物

前田沙耶香
三倉舞子

●1場

舞台が明るくなると、そこは1LDKのマンションの一室。誰も住んでいないが、家具が少しだけ置いてある。上手袖が玄関と台所、下手袖がトイレやバスルーム。舞台となるのは10畳の部屋、時間はもうすぐ夕方。部屋は3階で窓は南西に面している。

不動産屋の従業員、前田沙耶香(28)が客の三倉舞子(29)を連れて来る。だが、舞子は玄関から中へ入ってこない。

沙耶香 どうぞ、ここなんですけれど……

舞子、入ってこない。

沙耶香 どうぞ。……三倉さん？ どうしました？

舞子 いえ……。

沙耶香 はい。(部屋を指して)家。

舞子 あっ、いいえ。

1

沙耶香 はい。いい家……なんて冗談言ってる時間ありませんよ。早くしないと陽が落ちてちやいますから。どうぞ。

舞子 ええ……。

しかし、舞子は入ってこない。

沙耶香はいいかげんしびれを切らしている。

沙耶香 部屋見るのやめます？

舞子 見ます。

沙耶香 じゃあ入ってこなきや。そっちが6帖の台所でこっちが10帖の洋室。どうぞこち来て。

舞子、入ってきて残っている家具を見る。

沙耶香 あっ、気にしないで。これ、前の人のなんですけど、こっちで処分することになってるんです。入居までには片付けておきますから。

舞子 ……。

沙耶香 物件なんてね、ためらってちやダメなんですよ。インスピレーションではぱっと決めたほうが間違いないから入りするもんなんですから。

舞子 インスピレーション？

沙耶香 そうです。いいものはいい、気に入らないものは気に入らない。いくらこまかい2ことを詳しく調べても気に入らたらそんなのは関係ないんですよ。お客さんの中にはアパマンとかのいい物件の見分け方なんていう特集見て、メジャーとか磁石持ってきちゃったりする人もいますけど、それって私達不動産屋の言ってることを信じてないって事ですよ。やっぱり信頼関係がないとね。目の前で方位とか測られたらこっちだって……

舞子、いつの間にかメジャーと磁石を取りだして方位を見ている。

沙耶香 測ってますね。

舞子 すみません。

沙耶香 いいんですよ。どんどん測って下さい。なかには嘘つくよくない連中もいますから。でも安心して下さい。うちは大丈夫。うちの扱う物件に嘘はありません。うちの会社のもっとうとしてる5個条っていうのがあるんですけどね、そのうちの3つ、根性・努力・忍耐なんですから。

舞子 なんの関係があるんですか？

沙耶香 要するに、うちの社長、体育会系っていうか……まあその残りの2個条が義理人情っていうか……。

舞子 ……やくざ。

沙耶香 違いますよ、極道。

舞子 帰ります。

沙耶香、舞子の前に立ちふさがる。

沙耶香 かえさしまへんで。あんさんに借りてもらうまではないなあ。
舞子 ……

沙耶香、舞子をじりじりと追い詰め、ぼんと肩をたたく。

沙耶香 冗談ですよ。本気にしないで下さい。

舞子 脅かさないで下さいよ。

沙耶香 すみません。調子に乗りすぎちゃうんですよ。悪い癖なんですよ。

舞子 社長が極道だって言うのは……

沙耶香 もちろん嘘。まあ遊び好きの極道もんなのは本当ですけどね。仕事では誠実さを武器にここまで会社を大きくした人ですから。

舞子 誠実な遊び好きの極道もんですか？

沙耶香 私生活にだらしないって事です。よくいるじゃないですか。仕事はできるけど、私生活はだらしない。

舞子 ええ……

沙耶香 典型的そのタイプ。

舞子 ……

沙耶香 どうかしました？

舞子 確かに、窓は南西向きでした。

沙耶香 そうでしょ、普通これなら「完全南向き、ひあたり最高」って書いてもいいくらい。

舞子 書いてあった通り、駅からもちゃんと8分30秒でしたね。

沙耶香 でしょ。普通なら5分って書きますよ、5分って。いい部屋でしょ。

舞子 ええ。

沙耶香 ようく納得いくまで見て下さい。三倉さんがついに見る気になった物件なんですから。

舞子 すみません、お手数かけちゃって。

沙耶香 いえ、それが私の仕事ですから。でも図面だけで物件見ないで半年も通ったのはあなたがはじめて。

舞子 しつこい性格なんです。

沙耶香 1LDKにこだわってましたよね。

舞子 そういうわけでもないんですけど……

沙耶香 1LDKの物件しか見なかったじゃないですか。同じ値段で2LDKもあったのに。

舞子 独り暮らしですから。そんなに広いのはちょっと。

沙耶香 まあ、さっきも言ったように、気に入ってもらえればそれでいいんですけどね。

3

時間はありますからよく見て下さいね。

舞子 はい。

沙耶香 どうですか、ここに決めますか？

舞子 まだお風呂も見てない。

沙耶香 まだ見てなかったんですか？！

舞子 だって……

沙耶香 冗談ですよ。さあ、どうぞ、あちらです。

沙耶香、舞子を下手に連れて行き、自分は戻ってくる。

さっきまでとは違ってかわって気だるそうな態度の沙耶香。

腕時計を見て時間とかを気にしている。

携帯電話を取りだし、かける。

沙耶香 もしもし……あたし。ごめんね、どうしてもって言う客がいてさあ……ちよつとね、時間かかりそうなのよ。えっ、今？

沙耶香、風呂の方をのぞいて見る。

沙耶香 (舞子へ) 三倉さん、大丈夫だって。ちゃんと一人は入れる大きさですから。(電話

話へ) 湯船のサイズ測ってる。そうそう、そういう客なの。だから……うん、終わったら電話するから……

4

沙耶香、電話を切る。

舞子、出てくる。

沙耶香 どうでした？

舞子 いいですね。

沙耶香 ついてたでしょ？

舞子 はい、ついてました「湯名人」。

沙耶香 これで24時間お風呂はオツケー。お湯を溜めるのは風呂オツケー。(くだらないギャグにもめげず) トイレも見ていただけました？

舞子 はい。ついてました。

沙耶香 ついてたでしょ、ウォシュレット。このマンションでこの部屋だけなんです。ついてますよお客さん。

舞子 ついてるのはそれだけ？

沙耶香 いえいえ、ほら、クローラーだってちゃんと完備してますし、台所だって電気調理器じゃなくてガスコンロ。4600ワットの強力タイプで中華も安心。水道には浄水器でおいしいお水が飲み放題。洗濯機だって室内に置けるし、料金は別ですけど駐車場だってついてます。車、乗ってます？

舞子 免許、持ってないですから。

沙耶香 ついてる！ 今ちょうど駐車場の空気がなかったの。ついてるわ三倉さん。

舞子 たしか敷金、敷金は……

沙耶香 なしなし！ ますますついてる！ しかもほら、内装だって全部新しくしたんですよ。見て下さいよこのきれいな壁。新築同然。10帖の部屋に6帖の台所、風呂トイレ別々で家賃はこのあたりじゃ破格の7万9千円。管理費込みのチヨーター

舞子 ……

舞子、窓の方をじっと見ている。

沙耶香、窓のところへ行く。

沙耶香 ほら、3階だから窓からの眺めも最高！ きれいなマンションの窓が目の前に……まあ、向こうからも見えるけど、こっちからも見えるんだから。お互い条件は同じですよ。要するに気にしなきゃいいんです。夜はカーテン閉めればいいし、屋なら向こうの部屋みたいにリースのカーテンでオッケー。ほら、向こうの部屋の中、見えないでしょ。10メートル以上離れてるんだからこのくらい東京じゃよしとしくなくちゃ。

沙耶香が振り向くと、舞子は何かを追うように視線を動かしている。

沙耶香 ……三倉さん？

舞子 ……

沙耶香 ……(遠くのものに呼び掛けるように)おーい、三倉さん？

舞子 あっ、はい。

沙耶香 聞いてます？

舞子 ええ。

沙耶香 よかった。私をおいてどっか遠くへ行っちゃったのかと思いましたよ。

舞子 ええ、見えたもんですから。

沙耶香 えっ、そうですか？ (窓から向こうのマンションを見て) ……中、見えませんよ。

舞子 そうじゃなくて。

沙耶香 そうじゃなくて？

舞子 ええ。そこに。

舞子、部屋の隅を指す。

沙耶香、不思議そうにそこを見る。

沙耶香 壁がなにか？

舞子 壁の前に。

沙耶香 なんか落ちてます？

沙耶香、部屋の隅に近づく。

舞子は、視線を反対側へ移動させている。

沙耶香 ああ、ちょっとほこりたまってますね。入居前にはちゃんと掃除しときますか

舞子 そうじゃなくて、今はこっちにいます。

舞子、部屋の反対側を指す。

沙耶香 いる？

舞子 はい。います。

沙耶香、怯える。

沙耶香 えっ……まさか……でた？

舞子 (うなずく)

沙耶香 もしかして……それって……。

舞子も真剣な表情になり……

舞子 でた。

沙耶香、逃げる。

沙耶香 でたなゴキブリ！！

舞子 前田さん……。

沙耶香 苦手なんですよ。コオロギは平気なのに何でゴキブリはダメなんだろう。

舞子 違いますよ。

違うのはわかってますよ。でも、似てるでしょコオロギとゴキブリ。脂ぎってるかどうかでも印象が違うなんて……(妙に納得して)あっ、そうか。脂性の男が嫌いなのはここに理由があったわけだ……。

舞子 納得しないで。

沙耶香 バルサン、たいておきますから。

舞子 ごまかしてません？

沙耶香 ……なにを？

舞子 ……いろいろ。

沙耶香 さっきも言ったじゃないですか。うちの会社のもっとうちは根性・努力・忍耐・義理・人情。

舞子 前にすんでた人はどんな人なんですか？

沙耶香 ……何でそんなこと聞くんですか？

舞子 ちょっと気になって。

沙耶香 前は私の担当じゃなかったから……でも普通の独身のサラリーマンだったと思うけど。

舞子 その人、どうしたんですか？

沙耶香 別に……。

舞子 ウソ。

沙耶香 ……なにか知ってるの？

舞子 知ってるって……やっぱりなにか……。

沙耶香 ……いやなら借りてもらわなくても結構。

舞子 いやとはいってません。

沙耶香 だったら、ごちゃごちゃ言わないで。

舞子 だって、こんなに条件いいのに礼金敷金なしで家賃も安いし、24時間風呂とかウォッシュレットとか浄水器とか妙にいろいろなもの付いてるし。

ラッキーじゃない。

舞子 なんがおかしい。

沙耶香 あなた、かわいそうな人生送ってきたみたいね。

舞子 どうですか。

沙耶香 自分の幸運が信じられないんですよ。

舞子 そうやってごまかそうとしてる。

沙耶香 色々ついでるのはね、社長がこれからは付加価値の時代だって。

舞子 じゃあ壁を新しくしたのは？

沙耶香 前の人へヘビースモーカーで壁が茶色になってたんですよ。

舞子 違うでしょ。

沙耶香 疑り深いわね。

舞子 確か、物件に以前事件とかそういうことがあった場合は、借りる人間にちゃんと

言わなきゃいけないじゃないですか？

沙耶香 知らないことまで知ってるのね。

舞子 前の人？

沙耶香 ……失踪した。

舞子 失踪？

沙耶香 シッソウっていつでも走り抜けたわけじゃないわよ。いなくなったの。

舞子 それで？

沙耶香 それだけ。別にここで自殺があったとか、殺人事件があったとか、そういうこと

じゃないんだからこっちは言う必要もないんだけど……へんに勘繰られる

のも癪に障るから……あーあ、言っちゃった。

舞子、じっと沙耶香を見ている。

舞子、じっと沙耶香を見ている。

沙耶香 ……まだなにか？

舞子 その人、死んでいない(死んで、いない)でしょ。

沙耶香 ええ。

舞子 やっぱり……。

沙耶香 きつとどこかで人生やり直してるんじゃないの。

舞子 死んだらむりよ。

沙耶香 生きてるでしょ。

舞子 だって、死んでいない(死んで、いない)って。

沙耶香 だから、死んでいない(死んでない)わよ。

舞子 ……またごまかそうとしてませんか。

沙耶香 なあに？ あなたこそ何が言いたいのよ。あたしはちゃんとすべてを話したわ。

確かにこの部屋の家賃が安いのも、敷金礼金がないのも、いろんなものがついてる

のも、前の住人が失踪したせいよ。失踪したくらいでそんなことしなくてもいいん

だけど、社長がどうしても言うから。少しでも気持ち良く借りてもらいたいとい

う誠実さの現れなの。わかる？

舞子 後ろめたさの現れだったりして。

沙耶香 ……ケンカうってるの？

舞子 誠実だなんていいながら嘘ついてたくせに。

沙耶香 嘘はついてないわ。ただ、言わなかっただけよ。

舞子 全然誠実じゃない。

沙耶香 そう思うなら勝手にどうぞ。こっちは無理して借りてもらわなくてもいいんだか

ら。こんな条件のいい物件、すぐに借り手は見つかるわ。

舞子、玄関の方へ。

舞子はじっと立っている。

沙耶香、戻ってくる。

窓の外はもうかなり暗くなっている。

舞子 ……何してるの。もうおしまいよ。

舞子 その人、きつと死んだわ。

沙耶香 ……何が言いたいの。

舞子 だから、死んだって……。

沙耶香 いい加減にしてちょうだい！ なんの根拠があつてそんなこと言うのよ！

舞子 誰が？

沙耶香 その人。

舞子 どこに？

沙耶香 あなたの後ろに。

舞子

稲光がして、遠雷が聞こえてくる。

沙耶香、後ろを見るができない。

舞子

稲光がして、遠雷が聞こえてくる。

沙耶香、後ろを見るができない。

舞子

稲光がして、遠雷が聞こえてくる。

沙耶香、後ろを見るができない。

舞子

稲光がして、遠雷が聞こえてくる。

沙耶香 ……。
舞子 ……。
沙耶香 ……バカ言うんじゃないわよ。
舞子 (にっこり笑ふ)
沙耶香 ……ちよっと、なによその笑いは！
舞子 今、その人が笑ったから。
沙耶香 えっ……。

舞子、手を振る。

沙耶香 な、なに！？
舞子 手を振ってます。
沙耶香 どうして！？
舞子 さあ？

舞子、沙耶香の方へ視線を移す。(幽霊が沙耶香の前に移動した)

沙耶香 ……(幽霊？を見て) えっ？……(納得) ああ。(じゃんけんをする) じゃんけん
舞子 ……
ぼん！あっち向いてホイ！

沙耶香、思わず「あっち向いてホイ」に反応してしまうが、負ける。

舞子 勝ったー！
沙耶香 怒るわよ！
舞子 喜んでるけど。
沙耶香 これは怒ってるの！
舞子 どうして？
沙耶香 あたりまえでしょ。
舞子 「あっち向いてホイ」に負けたくらいで？
舞子 ケンカうってるの？！
舞子 にこここしてますよ。
沙耶香 (自分の顔を指し) イライラ！ 今にも切れそうに見えない？
舞子 私が言ってるのはあなたじゃないです。
沙耶香 本気で怒るわよ、誰がいるって言うのよ！

舞子、沙耶香の前の幽霊を指さすが、沙耶香には自分を指しているように見える。

9

沙耶香 ……切れた、もう完全に切れた。
舞子 誤解しないで。あなたを指したんじゃないですよ。
沙耶香 今、こうやって(指さす)私を指したじゃない！
舞子 あなたの前を指したんです。
沙耶香 前？
舞子 そう。私とあなたの間。
沙耶香 プツーン！
舞子 そこにいるの、彼が。

舞子、指さす。
舞子に近づこうとしていた沙耶香、慌てて飛び戻る。

沙耶香 よしなさいよ！
舞子 (指していた指を下ろす) だって……。
沙耶香 彼って誰よ！
舞子 だから、ここに住んでた人……。
沙耶香 ……いいわ。仮にあなたが本当にそういうものが見えるとしてもよ。
舞子 本当に見えるんです。ほら、あなたの肩に。
沙耶香 うわああっ！

沙耶香、慌てて逃げる。

舞子 っていうのは嘘ですけど。
沙耶香 ……わかった……。
舞子 わかってもらえました？
沙耶香 家賃は下らないわよ。
舞子 え？
沙耶香 この好条件で7万9千円でも不満だって言うの？
舞子 何を言ってるんですか？
沙耶香 たまにいるのよ。あなたみたいに難癖つけて少しでも家賃を安くしようっていう
とんでもない客が。
舞子 私、家賃は7万9千円でいいですよ。
舞子 いいの？
舞子 はい。
沙耶香 じゃあ、礼金敷金……
舞子 なしなしなんですよ。
沙耶香 じゃあ……。
舞子 いいえ。エアコンも浄水器もウォシュレットもついてるし、壁だって新しいし。
文句なんかないです。
沙耶香 嘘。更新料を無しにしろ？

10

舞子 違います。

沙耶香 床を張り替える？

舞子 綺麗じゃないですか。

沙耶香 畳を新しくしろ。

舞子 畳の部屋なんてありません。

沙耶香 電話回線をI・S・D・Nに。

舞子 なんですそれ？

沙耶香 駐車場！

舞子 だから免許持ってないって。

沙耶香 お湯の出が悪い！

舞子 お湯が？

沙耶香 換気扇がうるさい、窓がしまりにくい！

舞子 ……。

沙耶香 おまけに4階の物音が響くしトイレがよくつまる！

舞子 よくつまるんですかトイレ？

沙耶香 あっ……。

舞子 この部屋、お湯が出にくくて換気扇がうるさくて窓が閉まりにくくて4階の物音が響くんですか？

沙耶香 ……うまく聞き出したものね。

舞子 自分でしゃべったくせに。

沙耶香 でも、家賃はこれ以上上げないわよ。

舞子 わかってます。

沙耶香 だったらなんで見えるなんていうのよ。

舞子 笑ってますよ。こうやって。

舞子、沙耶香を指さして腹を抱えて笑う真似。

沙耶香 ……なるほどね……そういうことか。

舞子 えっ？

沙耶香 色々考えるものね、尊敬するわ。

雷とともに雨が降りだす。

舞子 なんか、また勝手に思い込んで勘違いしてませんか？

沙耶香 どの人？

舞子 だから、前にここに住んでた人。

沙耶香 違うわよ、あなたよ。

舞子 私？

沙耶香 そう。

舞子 ……群馬ですけど。

沙耶香 田舎聞いているんじゃないわよ。どこの会社？

舞子 お茶の水にある編集プロダクションですけど……入居希望書みたいなのに書きましたよ。

沙耶香、その舞子が書いた紙を取り出す。

沙耶香 (読んで) 有限会社イージー・ライター……。

舞子 ええ、雑誌の編集プロダクションなんです。そこにも書きましたが、私、正社員じゃなくて契約社員なんです。契約社員じゃ入居審査、通らないんですか？

沙耶香 編集プロダクションなんて嘘でしょ！

舞子 嘘じゃありません。調べてもらえばわかります。

沙耶香 いいわ。それは本当だと思ってるあげる。

舞子 なんかむかつく言い方。

沙耶香 あなたも記事を書くのね！

舞子 一応、ライターですから。

沙耶香 不動産関係の雑誌にかかわってるわね！

舞子 ええ。

沙耶香 認めたな、このメス狐！ 正体を現しなさい！

舞子 メス狐？

沙耶香 そうよ、メス狐。変なうわさを流そうとしても無駄よ。白状なさい。

舞子 また勘違いしてませんか？

沙耶香 誰に頼まれたの？ わかった、駅前の福富不動産の狸オヤジね。

舞子 誰ですかそれ？

沙耶香 狸オヤジにメス狐。力を合わせて世間をばかそうとしてもそうはいかなわよ。

舞子 狸に知り合いません。

沙耶香 うちが扱う物件には出る、なんて雑誌に書かせて評判を落とそうと考えたんだろうけど残念だったわね。福富のタヌキに伝えなさい、しよせんあんたの考えることはタヌキの浅知恵なのよ！

舞子 驚いた。

沙耶香 ほらみなさい。あたしの鋭い洞察力に観念したようね。

舞子 あざれたんです。よくそこまで勝手に話をつくれるもんだわ。

沙耶香 不動産の雑誌に記事書いてるくせに。

舞子 私が記事を書いているのはリゾート地の別荘を専門に扱ってる業界紙です。「別荘三昧」って知りませんか？

沙耶香 まずは別荘業界でうちの評判落とす気ね。

舞子 おたくのような町に密着した小さな不動産屋が別荘なんて扱ってるんですか？

沙耶香 別荘として部屋を借りる人もいるわよ。

舞子 目黒区に？

沙耶香 そういふ人がいてもいいでしょ。

舞子 「別荘三昧」では東京23区の物件は扱わないんです。

沙耶香 わかった、編集後記に載せる気ね。
舞子 ……本当に載せたくなくて来た。
沙耶香 ほら、やっぱり。
舞子 ……。

舞子、幽霊の方を指さす。

沙耶香 何よ。

舞子 本当にそこにいるんです、彼が。
沙耶香 強情な女ね。

沙耶香、隅へ行き部屋の明かりのスイッチを入れる。
部屋が明るくなる。

沙耶香 これでもう見えないでしょ。薄暗かったからそんな幻影が見えるのよ。

舞子 蛍光灯……。

沙耶香 前の人のよ。欲しかったら家具も蛍光灯もつけてあげるわよ。

舞子 トイレのウォシュレットも彼が残したものでしょ？

沙耶香 えっ……違うわよ。私達がつけたものよ。前の人のをそのまま使うなんて借りる人だっつていやじゃない。

舞子 でも、自分のだつて。

沙耶香 自分の？

舞子 こうやってるもの。

舞子、ジェスチャーゲームの要領で「ウォシュレットは自分の買った物だ」ということを表現する。
つまり、幽霊がそういうふうになっているということ。

沙耶香 何が目的なのよ。

舞子 見えませんか？

沙耶香 見える訳ないでしょ。

舞子 おかしいな。「ウォシュレットは自分の買った物だ」って見えませんか？ 私にはそう見えたんだけど。

沙耶香 わかったわかった。確かにウォシュレットは前の人のよ。でもこの部屋だけに付いているなんてあたしがよけな事を言ったからそう思ったんでしょ？

舞子 彼がそうやってるんです。そこで。

沙耶香 じゃあ、その彼の名前はなに？ 見えるんだつたら聞いてみなさいよ。

舞子 それは……。

沙耶香 ほらごらんさい。

舞子 だつて、見えるけど、声は聞こえないから……。

13

沙耶香 (勝ち誇って) オホホホ。そうやってごまかそうとしてもダメよ。
舞子 テンション、高いですね。
沙耶香 じゃなきゃやっつてられないわよ。あなたの話を真剣に聞いたらこっちの負けだもね。

舞子 勝ち負けじゃないと思う。

沙耶香 さあ、名前を聞いてみなさいよ！

舞子 名前、知ってるんですか？

沙耶香 ……忘れたわ。

舞子 でも事務所に連絡すればわかるでしょ。

沙耶香 まあね。

舞子 じゃあ聞いてみます……。

舞子、幽霊の方を見る。

沙耶香も半信半疑でそこを舞子を見比べている。

舞子 ……あの、そういうわけだから……。

舞子、幽霊のジェスチャーを見ている。

舞子 (沙耶香へ) 教えてくれるみたい。(幽霊の方をみて) えっ……「しっぽ」？……違う？「おしり」？ わかんない。(沙耶香へ) これ、なんに見えます？

舞子、お尻の後ろにある「尾」を表すジェスチャーを必死で真似する。

14

沙耶香 ……ばかな女。

舞子 怒りますよ。

沙耶香 ……おなら。

舞子 (幽霊を見て) 違つて。

沙耶香 お尻がちよーん。(＊ジェスチャーによつては変えて下さい)

舞子 真面目に答えて。

沙耶香 自分で考えなさいよ。

舞子 名前きけつて言ったのはあなたよ。

沙耶香 私忙しいの、こんなばかなことに付き合つてる時間はないの。私にはね、大事な約束があるの。

舞子 デート？

沙耶香 仕事です。

舞子 結婚なさつてるの？

沙耶香 関係ないでしょ。

舞子 私はお客よ。

沙耶香 お客にプライベートを答える義務はないわ。それにね、あなたのようなのは客

じゃなくて冷やかしているの。

舞子 あっ、わかった！

沙耶香 なによ。

舞子 (ジェスチャーをして) さっきのこれ、尾っぽの意味だ。「お」ってことよ。昔、ジェスチャーゲームでよくやってたもの。ね、そう思うでしょ？

沙耶香 ……さあね。そんな番組見たことないし。

舞子 嘘。私とほとんど同じ年なのに？

沙耶香 ……「お」だったらどうしたっていうのよ。

舞子 そんなすぐまなくたって。(幽霊を見て) えっ？…。(腕をクロスして) ×？ ……
今のは無して事？ ……あっ、そう。(沙耶香に) 今のは無しだそです。

沙耶香 からかっているでしょ。

舞子 (幽霊に) からかっているの？

沙耶香 あんたがよ！

舞子 待って！ なんかやっている(幽霊を見て、仲裁に入るジェスチャー) ……けんかはよせ。

沙耶香 (ため息をついて) 今なら許してあげるから。もうやめましょ。

舞子、幽霊のジェスチャーの真似をする。

それは、草刈りをしてその草を指す「草」を表わすジェスチャー。

舞子 草刈り？…草刈りの…草？ 「草」なのね。

沙耶香 まだやる気。

舞子 まずは「草」だって。

沙耶香 草？

舞子 間違いない、「草」よ。次は？

舞子、幽霊のジェスチャーの真似をする。

それは三角と四角を合わせた「家」を形で表わすジェスチャー。

舞子 三角…四角？(沙耶香へ) これ、なにかしら？

沙耶香 イカ。

舞子 足がない。

沙耶香 ……「家」じゃないの。三角は屋根でしょ。

舞子 (幽霊を見て) ビンポーン！ すごい、家だって。

沙耶香 バカにされてるとしか思えない。

舞子 「草」「家」か…暗号みたいね。(幽霊に) 次は？

舞子、幽霊のジェスチャーの真似をする。
それは自分の顔を指す「顔」を表わすジェスチャー。

舞子 自分？ ……違つの？(沙耶香へ自分の顔を指したポーズで) 次はこれだって。

沙耶香 (舞子を指さし) いやな客。

舞子 彼は自分を指しているの。

沙耶香 どこ指しているのよ？

舞子 顔だけど…そうか、(幽霊に) 顔？ そつなのね！ 「顔」か！

沙耶香 はいはい、次はなに？

舞子 (幽霊を見て) ……え…おしまい？(沙耶香へ) これで終わりみたい。

沙耶香 (鼻で笑う) フンッ。

舞子、今までのジェスチャーで繰り返し返す。

舞子 ええと…「草」「家」「顔」だっけ？(幽霊へ) これでもいいの？ ……そう、これでもいいのね。「草」「家」「顔」。

沙耶香 (営業スマイルを満面に浮かべて) お客様、お気づきだとは思いますが、「草」

「家」「顔」はどう考えても人間のお名前ではないと思いますよ。

舞子 そうだけど…(幽霊を見て) えっ？ どういうこと？

舞子、幽霊と沙耶香を見比べる。

幽霊はにこにこ笑っている沙耶香を指さしているのだ。

沙耶香 (営業スマイルを満面に浮かべて) お客様、今度はどんな方法でごまかすおつも

り？

舞子 あなたを指さしているの。あなたの顔を指さしているの。

沙耶香 (営業スマイルを満面に浮かべて) はあ〜？

舞子 クサ、イエ、カオ、クサイエカオ、臭い笑顔！ 臭い笑顔！

沙耶香 な、なによ！

舞子 顔してる。(沙耶香を指さし) 「臭い笑顔」だ！

沙耶香 完全に怒った！

舞子 だって、彼がそうだって。

沙耶香 どの世界に「臭い笑顔」なんていう名前の人間がいるのよ！

舞子 いるわけない！

沙耶香 絶対あつてる。

舞子 お客様、教えて差し上げましょうか。以前ここに住んだ人は岡っつという人なのよ。岡英作。とつとう化けの皮が剥がれたわね。

舞子 本当に岡英作？

沙耶香 そうよ。失踪したのは岡英作。

舞子 名前、覚えてたんじゃない。

沙耶香 あんまりしつこいと警察呼ぶわよ。

舞子 だって…(幽霊を見て) えっ？

舞子、幽霊のジエスチャーの真似をする。

それは「ひっくりかえせ」を表わすジエスチャー。

沙耶香、携帯電話を取りだし、110番しようとする。

舞子
(幽霊へ)どっぴんぐこたっ

沙耶香 本気にしてないのね、覚悟なさい。

舞子 ひっくりかえせ？ 逆にしろって事？ 「臭い笑顔」を逆にすると……。

沙耶香 (電話に) もしもし、警察ですか？

舞子 お・か・え、い・さ・く……。

沙耶香 (気づいて驚き) ……。

沙耶香、電話を切る。

舞子 お・か・え、い・さ・く……おかえいさく、岡英作……。

沙耶香 ……。

舞子 当たった。

沙耶香 ……まぐれよ。

舞子 まぐれで人の名前を当てられるかしら。

沙耶香 ひっくり返すなんてずるい。

舞子 そういう問題？

沙耶香 私は信じないわよ。

舞子 名前、当てたのに？

沙耶香 ……。

舞子 彼は……英作さんはそこにいるの。

沙耶香、怯えて舞子の指さすほうを見る。

沙耶香 ……。

舞子 ……笑ってる。

沙耶香 や、やめて！

舞子 何を怖がってるの？

沙耶香 怖がるのが普通よ！ おかしいんじゃないの！

舞子 慣れるから、こういうの。

沙耶香 よしなさいよ！ 信じないわ、絶対信じない。子供の頃から信じない人間だったもの。そっよ、私は信じない！

舞子 それはあなたの勝手だけど。

沙耶香 誕生日は、誕生日はいつよ！

舞子、幽霊の方をみて、幽霊の真似をする。

幽霊は、手の指を8本、1本、9本、としている。

舞子 8月……19日。

沙耶香 な、何で知ってるの！？

舞子 あなたこそ。

舞子、沙耶香の方を見ている。

沙耶香 なによ！

舞子 彼、あなたのことが気に入ってるみたい。

沙耶香 そんなはずない！

舞子 だって、ほおずりしてるもの。

沙耶香 うわああー！

沙耶香、隅に逃げて腰を抜かす。

はって玄関へ逃げようとする沙耶香の前に舞子が立ちふさがる。

舞子 怖がることないじゃない。

沙耶香 帰る！

舞子 私、もつとこの部屋を見たい。

沙耶香 なにいつてるのよ、いるんでしょ！

舞子 信じてくれた？

沙耶香 信じないわよ、信じないけど、苦手なのよ！

舞子 大丈夫。とりついたりしないって。

沙耶香 勘弁してよ！

沙耶香、部屋の隅へ逃げる。

沙耶香 どこ、どこにいる？

舞子 英作さんならそこよ。

舞子、沙耶香の近くを指す。

沙耶香 (逃げて) うわっ！ こっち来ないよに言ってるよ。

舞子 どうしたの？ おかしいよ。怖がり過ぎじゃない？

沙耶香 平気な顔してるあなたの方がぜったいおかしい。

舞子 英作さん、悲しそうな顔してるよ。

沙耶香 お願いだから名前で呼ばないで！

舞子 英作さんなんでしょ？

沙耶香 しらないわよ。

舞子 嘘、知ってるくせに。
沙耶香 見えないんだからわからないでしょ。
舞子 感じなさいよ。

舞子、部屋の電気を消す。

沙耶香 なにするの！

舞子 ほら、そこにいるのがわかるでしょ。

沙耶香 ……

舞子 あなたを見る。

稲光、そして雨の音が響いている。

沙耶香 ……誰？

舞子 英作さんよ。

沙耶香 あなた、誰？

舞子 三倉ですけど。

沙耶香 何でこんなことするの？ 何が目的なの？

舞子 別に。ただ、見えちゃうから。

沙耶香 本当のこといいなさいよ。

舞子 見えるんです。いるんです、そこに。名前当てたじゃないですか。

沙耶香 最初から知ってたんでしょ。あなた、英作のなに？

舞子 英作？

沙耶香 そうよ、ここに住んでた岡英作よ。

舞子 呼び捨てですか。

沙耶香 しらじらしい。知ってるんでしょ、あたしと英作のこと。

舞子 あなたと？

沙耶香 あんたあいつの女？ もてたみたいだから、あんたみたいな女が他にいても不思議じゃないし。

舞子 お付き合いですか。

沙耶香 なに聞き出したのかわからないけど、あいつが勝手にいなくなったのよ。今、どこで何してるか、私だって知らないの。

舞子 英作さんはなくなっただと思えますよ。ここにこうやってるってことは。

沙耶香 ……

沙耶香の携帯電話が鳴る。

沙耶香 (電話に出て) もしもし……ええ、もう少しわかりそう。うん、ごめんね。少々厄介なことになってるから……。

沙耶香、電話を切る。

舞子 もう新しい彼氏ですか。

沙耶香 悪い？

舞子 ひどいんじゃないですか。

沙耶香 言っとくけど、英作は単なるお遊び。ちょっとかっこよかったから誘惑してみたのよ。私があんな男を恋人にする分けないでしょ。

舞子 なんて人なの。

沙耶香 遊び好きの極道もんだって言ったでしょ。うちの会社の社長、なにをかくそう私。

舞子 英作さん、泣いてる。

沙耶香 あ、そう。でもお互いさまでしょ、あいつだってあんたみたいな女がいたんだから。

舞子 違う。私は本当に見えるから……

沙耶香 なにやっただって信じないからね。(英作を見て) え？ どういうこと？

舞子 ……そんな、まさか……。

舞子 ……

舞子 心配しないで。いい人そうだから大丈夫。この家具ももらいます。英作さん、す
りすりして捨てないでって訴えてるから。

沙耶香 ……本当に見えるの？

舞子 はい。

沙耶香 ……。

舞子 ……私が本当に見えるはずのことでもあるんですか？

沙耶香 ……べつに。ただ、あんたが全然理解できないだけ。

舞子 ほら、英作さんも喜んでる。

舞子、部屋の中央を差す。

沙耶香もそこを見つめる。

その中央の明かりが残りつつ、暗転。

●2場

舞台が明るくなると、そこはLDKのマンションの一室。

あれから一カ月後。

英作の家具と段ボールが少し置いてある。

住んでいた舞子がこの部屋から引越す日なのだ。

チャイムが鳴る。

しばらくしてまたチャイムが鳴り、その後、乱暴に何度も鳴る。

沙耶香の声 三倉さん、いないんですか！

チャイムが乱暴に何度も鳴る。

沙耶香が部屋の様子をうかがうように、少々恐る恐る入ってくる。

沙耶香 いないんですか？ ……なによ、4時って言ったくせに。(部屋の中を見渡し家具

を見て) ちょっと、これ置いてく気？ もってってよねえ、自分がいるって言った
んだから……。

英作の家具に触れようとしていた沙耶香、じぶんの言葉にはっとしてその手
を止める。

沙耶香 ……「いる」……

自分の背後を気にする沙耶香。

もしかして英作の幽霊がいるのでは……と思ってるのだ。

怖さを紛らわすために声を出してしゃべる沙耶香。

沙耶香 (笑って) アハハ……まさかね……。いないわよね。いるわけないのよ。そつよ。

(気が付く) ……でもまって、なんであの女だったっつカ月で引越しちゃうわ
け？ 強がってたけどやっぱり怖くなって……

沙耶香、気になって何度も自分の背後をハッと振り返る。

その姿は自分のしっぽを追いかけている犬のよう。

沙耶香、そんな自分の姿に気が付く。

沙耶香 なにやってるんだらう、あたし。見えないもの怖がってどうすんのよ。あゝあバ
カみたい。そつよ、見えないんだから平気よ。くやしかったら姿見せる！なんて
ね。

笑って振り返った沙耶香の目の前の段ボールの中から、舞子が現れる。

沙耶香 (驚く) うわあああー！

舞子 いらっしやい。

沙耶香 なにやってるのよ！

舞子 段ボールに入ってた。

沙耶香 中で何してたか聞いているの！

舞子 ごめんなさい。脅かす気はなかったの。

沙耶香 そのどこをとったら脅かす気が無いなんて言えるわけ？

舞子 本当よ。思ったより早く引越しの荷物を運び出しちゃったから、時間が余っ
ちゃって。使わなかった段ボール見てたらなんだか中が気持ち良さそうだから
入ってみたの。

沙耶香 チャイム鳴らしたでしょ。聞こえなかったとは言わせないわよ。

舞子 (うなずく)

沙耶香 あたし、部屋に入ってから「いないんですか」って言ったわよね。

舞子 (うなずく)

沙耶香 じゃあなんで返事しなかったの？

舞子 脅かそうと思って。

沙耶香 !……………(自分に言い聞かせるように) いけないいけない。まともに相手した
ら負けだった。

私は脅かす気はなかったのよ。でも英作が……。

舞子 英作？

沙耶香 ええ。英作があなたを脅かせて……。

舞子 ふん、一カ月の間に「英作さん」が「英作」になったわけ。ずいぶん仲がおよ
しいよつで。

沙耶香 舞子、多にに照れる。

舞子、多にに照れる。

舞子 ヤダア……。

沙耶香、背中に悪寒がはしる。

沙耶香 やだあ〜！

舞子、段ボールから出てくる。

舞子 短い間でしかけど色々お世話になりました。

沙耶香 あのね、礼金敷金がなだからって、一カ月もしないうちに引越されたんじゃこっちもこまるのよね。

舞子 どうして？

沙耶香 前の住人は行方不明、次に入った女はあつという間に引越した……これじゃまずやばい部屋みたいじゃない。

舞子 だって、(幽霊が) いるんだもの。

沙耶香 それが困るの。

舞子 皆さんが考えるより楽しいもんですよ。

沙耶香 なに言ってるのよ。一カ月もたなかつたくせに。

舞子 私が引越すのは英作のせいじゃないですよ。

沙耶香 嘘。なんだかんだいいながら本当は怖くなつたんじゃないの？

舞子 また勝手に決めつけてません？

沙耶香、きよるきよると英作を探して……

舞子 一緒に住んで楽しいなんて変よ。

舞子 まあ、色々大変ですけどね。英作つたら私がお風呂に入っていると必ずのぞきに来るし。前からそうだった？

舞子 知らないわよ。一緒に暮らしたことなんてないし。

舞子 ……来てません。

舞子 ごまかさなくてもいいのよ。怒らないから。

舞子 なんであたしがあんたに怒られなきゃいけないわけ？

舞子 英作が言ってたわよ。あなたは短気だって。

舞子 (疑って) あらあ？、さっきからおかしいわねえ。色々話してるみたいだけど、確か英作は喋れないんじゃないか？

舞子、段ボールの中から50音が書いてあるボードを取り出す。

舞子 これを使って話してたの。彼がこれを指させば話せるでしょ？

23

沙耶香 ……あたしを信用させようとしても無駄よ。

舞子 どうして私がそんなことしなくちゃいけないの？

沙耶香 こっちが聞きたいくらい。

舞子 でしょ？

沙耶香 とにかくお客様、引き渡しはこれで結構です。後ほどクリーニング業者にここを掃除させますので。その分の料金は請求させていただきます。

舞子 たった一カ月なのに？

沙耶香 一カ月でも住んだことにはかわりないでしょ。最初に交わした契約書に書いてあるはずよ。ちゃんと読んでから判子押せって言ったでしょ。今になって文句言われても困るなあ、お客様。……でも……もし……その辺にいる、……まあいるとしたら……その、あれをいしょに連れてってくれたら考えてもいいわよ。

舞子 あれ？ 信じないんじゃないの？

沙耶香 もし、よ。もしいるならよ。連れてってちょうだい。

舞子 無理です。

沙耶香 やっぱ、いないから、でしょ

舞子 ええ、英作は死んでこの世にいないですよ。でもそこにいます。

舞子、部屋の片隅を指す。

沙耶香 ……あなたには負けるわ。

舞子 認めます？

沙耶香 認めない。

舞子 強情なんだから。英作の言う通りね。

沙耶香 置いてゆかれても困るのよね。

舞子 認めるんですね。

沙耶香 そういう噂を置いてゆかれたら困るの。(英作の家具をみて) これも持ってってよね。

舞子 それは英作のだからここにおいておかなきゃ。

沙耶香 ……あのさあ一つ聞かせて。もし英作がいるとして……どうして連れてけないの？

舞子 さあ？

沙耶香 だって、あなたが無理だっていったんじゃないの！

舞子 違います。英作がこうやったから……。

舞子、腕をクロスして×印にする。

(英作を見て) この部屋にいたいみたい。

沙耶香 迷惑だっかっていってちょうだい。

舞子 好きだった人にそんなこと言うの？

沙耶香 あいつが私のことを好きだっただけ。言ったでしょ。

24

舞子 あなたのそばにいたいのかも。

沙耶香、舞子が先ほど見たところを指さして英作へ……

沙耶香 遠くにいて欲しいわね。

舞子、沙耶香の横を指さす。

舞子 今はそこにいますよ。

沙耶香 ……(我慢して)平気よ、見えないんだから。

舞子 ふん……。

沙耶香 なによ……。

沙耶香、耐えきれず逃げる。

沙耶香 もおっ！理由はなに？ここにいたい理由。

舞子 聞いてみましょうか？

舞子、ボードを見せる。

沙耶香、ボードを凝視するが何も見えるわけではない。

沙耶香 見えないこっくりさんみたい。ねえ、なんて言ってるのよ。

舞子 ……あなたを指していますよ。

沙耶香 えっ？

舞子 こうやって。

舞子、沙耶香を指す。

沙耶香 どういう意味よ。

舞子 そのものずばり。あなた。

沙耶香 あたし？

舞子 そう、あなた。

沙耶香 どういう意味よ。

舞子 だから、あなたが理由。

沙耶香 だから、なんであたしなのよ！

舞子、英作の方を見る。

舞子 照れてます。好きなんじゃないですか。悔しいけど……。

沙耶香 欲しけりゃくれてやるわよ。

舞子 そうもいかないでしょ。英作の好みだってあるし。

沙耶香 全然うれしくない。

舞子 かわいそう……英作。

沙耶香 かわいそうなのはあたしよ。あんたみたいな客に……

沙耶香の携帯電話が鳴る。

沙耶香 (電話へ)もしもし……うん。大丈夫。今日はこれで終わりだから。……わかった。6時に……じゃあ……。

沙耶香、電話を切る。

舞子 ……恋人だと思ってたあなたはあつという間に新しい男つくって……死んでも死にきれないはずだわ。

沙耶香 それが理由だって言うの？

舞子 そうかもね。

沙耶香 ちよつとまってよ！(英作を探しながら)恨む相手が間違ってる！恨むんなら犯人を恨みなさいよ！

舞子 犯人？

沙耶香 あんたが言ったんじゃない。英作は殺されたって。

舞子 英作がそう言ったの。

沙耶香 だってたら普通、犯人を恨むのが筋ってもんでしょ。

舞子、おもむろに沙耶香を指さす。

舞子、じりじりとあとずさり。

沙耶香 ……なによ。

舞子 ……さあ。英作が指さしてるから。

沙耶香、唾然としているが、そのうち不敵ににやりと笑う。

舞子 ……フッフ……これではっきりしたわね。

沙耶香 ……あなたは嘘ついてる。英作がここにいるなんて嘘。見えるなんて嘘。だって英作は私が犯人だって言ってるんでしょ。そうじゃないことは私が一番よく知ってるわ。

舞子 英作はあなたが犯人だなんて言ってないわ。指さしただけよ。

沙耶香 またそうやって言い逃れるつもり？じゃあなんで指さしたのよ。

舞子 だから、あなたが許せないんじゃないの？

沙耶香 自分を殺したやつよりあたしの方が憎いわけ？信じらんない。

舞子 あなたが理由で殺されたのかも。

沙耶香 あたしのせい？ 誰に？

舞子 さあ。

沙耶香 聞いてみればいいじゃない。ついでに死体はどこにあるのかも聞いてみれば？ 見つかってないって事はどこにあるんでしょう。だからふらふらしてるのかもよ。英作の死体。見つかったらあなたの言うこと何でも信じてあげる。

舞子 もう聞いてみました。

沙耶香 ……犯人も？

舞子 ええ。

沙耶香 ……あたしの知ってるやつ？

舞子 わかりません。英作、言ってくれないから。

沙耶香 言わない？

舞子 身体がどこにあるのかも言ってくれないんです。

沙耶香 あほらし。はあ、やっぱりまともに相手すると負けだわ。

舞子 言わないって事はよっぽどの理由があるんだと思うの。

沙耶香 言える訳ないわよね。殺されてないんだから。引越し終わったならとっとと出ていって。

沙耶香、部屋を出てゆこうとする。

舞子、荷造り用のヒモを取り出し、それを後ろから沙耶香の首に巻く。

沙耶香 な、なにすんの！

舞子 首を締められたの。こうやって後ろから急に。あつという間だったって。息が苦しいより首がちぎれそうまで痛くって、そのうち頭の中が黄色くなって、脳みそがはじけたみたいだって。

沙耶香 わかったから、どけてよ。

舞子 やってみようか？ 私がぎゅって力いければ英作に会えるよ。

沙耶香 ……会いたくない！

沙耶香、舞子の隙をついてヒモを奪う。

沙耶香、舞子に詰め寄る。

沙耶香 どういうつもりなのよ！

舞子 ……ごめんなさい。本気じゃなかったの。

沙耶香 あたりまえよ！

舞子 あなたがあんまり英作に冷たいから……つい……。

沙耶香 つい殺そうとしたわけ。こうやって！

沙耶香、舞子の首にヒモを巻き、今にも絞め殺しそうな体勢に。

舞子 ……。

沙耶香 ……もう、あんたといるとこつちまでおかしくなる。

沙耶香、ヒモを投げ捨てる。

舞子 おかしいですよ。

沙耶香 なんだ、自分でもわかってるんだ。

舞子 わかってませんよ。だって英作が言わないんだもん……。

沙耶香 そうじゃなくてあんたが……ああもう！

舞子 かばってるのかも知れない。誰かをかばってるのかも。(英作へ) そうなんでしょ？ ……やっぱり答えてくれないのね。

沙耶香 あのね、どうして自分を殺した相手をかばわなきゃいけないわけ？

舞子 ……愛してたから。

舞子、沙耶香を見つめ、それから英作の方を見る。

沙耶香もその方向を見る。

沙耶香 ……あいつがそんなタマなわけじゃないでしょ。あいつにとって愛なんてイコールSEXなんだから。かばってるとしたらその女よっぽど具合が良かったのね。

舞子 ……最低。

沙耶香 そういうやつなの。私だってそんなのわかって付き合ってたんだから。英作だって私が本気じゃないのわかってたはずよ。だからね、あいつが私を恨んだりするのはおかしいわけよ。そりゃまあ、未練があるとやわれりゃ悪い気はしないけどさ。

舞子 ……。

沙耶香 あいつ、何か喋った？

舞子 いるいる教えてくれました。

沙耶香 ……色々って何よ。

舞子 色々です。

沙耶香 気になるじゃない。言いなさいよ。

舞子 言っさいいんですか？

沙耶香 なによそれ。私のこと？

舞子 もちろん。

沙耶香 私の何よ。あいつ、なに言ったの？ ……まさかベッドの中のこととかじゃないでしょっね。

舞子 そうですよ。あなた上になるのが好きなんですってね。

沙耶香 ちよつと待った！ 冗談じゃないわよ！ (英作を探して) なんて事ばらしてんのよ！

舞子 いいじゃないですかそれくらい。

沙耶香 よくない！ 人間ドックでお尻の穴に指突つ込まれたくらい恥ずかしい！

舞子 そうかなあ。南が上になるのが好きなくらいどうってことないですよ。

沙耶香 南が上？
舞子 南が上になるのが好きなんですよ？
沙耶香 ……。
舞子 違うの？ 南が頭の上になるのが好きだって、わざわざベッドを反対に使って寝るんですよ。それとも北まくらが嫌いなだけ？
沙耶香 ……紛らわしいのよ、あなたの言うことって。なんか、全然かみ合わないのよね。
舞子 上になるのが好きだなんて言わないでよ。
舞子 うそ……じゃあなんのことだと思ったの？
沙耶香 決まってるでしょ。あの時の話。
舞子 ああ。バックが好きなんですってね。
沙耶香 ! ばらしてんじゃないの! (英作を探して) 私じゃなくてあなたが好きなんですよー!
舞子 あなたがよ。英作、そういつてたもの。
沙耶香 違うわよ、あいつがどこか屈折してるのよ。いつもワンパターンでバックなんだから!
舞子 メーカーはプラダが好きなんですよ？
沙耶香 ……はあ？
舞子 バック、買ったって言うってたわよ。プラダのバック。いつもワンパターンでもプラダならいいじゃない。
沙耶香 ……出てけ。
舞子 え？
沙耶香 とっとと出てけ! あんたと話してるとおかしなのがうつる! クリーニング代まけてやるからとっとと出てけ!
舞子 急に怒ったりして……なんかおかしいですよ。
沙耶香 あんたに言われたくない!
舞子 せっかとお話してるのに。
沙耶香 こっちは話したくないの。早く終わらせたいの。
沙耶香、舞子にメモ用紙とペンを渡す。
沙耶香 引っ越し先、書いて。
舞子 書かなきゃいけないんですか？
沙耶香 クリーニング代、請求するから。
舞子 しないから出て行っていったくせに。
沙耶香 気が変わったの。これで折れたら負けだもんね。
舞子 別にいいですけど。
舞子、住所を書き始める。

沙耶香 ……ねえ、なんであたしがここのベッド逆に使ってたの知ってるの？

29

舞子 え? だって……。
沙耶香 (遮って) いい。そつよね、英作に聞いたのよね。
舞子 はい。
沙耶香、どこに英作がいるのかと周りを気にしている。
舞子 沙耶香、あのおさあ、たとえ英作がここにいたとして、実書はないんですよ？
沙耶香 実書?
舞子 夜中に音を出すとか、物を動かしちゃうとかさあ。次に入居した人が怖がるようなことしないわよね。
舞子 その人が気に入らなかつたらやるんじゃないですか。
沙耶香 勘弁してよ。
舞子 あなたが住めばいいのに。
沙耶香 もっと勘弁してよ。
舞子 頼んでみれば? あなたの頼みなら聞いてくれるかも。
沙耶香 ……(英作をさがして)あのおさあ、なんの未練があつてふらふらしてるのか知らないけど、あつちの世界の方がきつと居心地いいと思うよ。あんたはもともと中途半端な男だったけど、死ぬときくらいはびしっと死ねば? お願いだからさあ、成仏してくれないかなあ……
舞子 あ……。
沙耶香 英作、顔いてくれた?
舞子 今、いませんよ。
沙耶香 え?
舞子 トイレじゃないですか?
沙耶香 死んだ人間がトイレ行く訳ないじゃない!
舞子 習慣なんですよ。一日三回は便器に座らないと落ち着かないんだって。
沙耶香 ……やっぱりかたがれてる気がする。
舞子 大丈夫。英作は実体がないからあなたを担ぐのなんて無理です。肩の上に乗るならできるかも知れないけど。
沙耶香 (ぐっぐらえて)……さっさと書きなさいよ。
舞子 電話番号も?
沙耶香 もちろんよ。もう決まってるんですよ。
舞子 ええ。
舞子 今度はどの辺に越すの?
沙耶香 どうして?
舞子 二度とあなたには会いたくないから。
舞子 そんな、残念。
沙耶香 ほお、ということば遠いんだ。
舞子 すぐ近所です。地図も書きましようか?
沙耶香 いいわよ、そんなもん!

30

舞子 一応、書いておきますよ、遊びに来て下さい。
沙耶香 絶対に行かない。

舞子、地図を書いている。

沙耶香 だからいらなくなって言ってるのに！

舞子 気持ちですから。

沙耶香 (ため息をつき)……近所ならなんでわざわざ引越すのよ。

舞子 言わなきゃだめですか？

沙耶香 言えないような理由なの？

舞子 そうじゃないけど……。

沙耶香 ちょうど英作もないことだし、本当のこと言いなさいよ。

舞子 ……。

舞子、窓に近づき、正面のマンションを指さす。

舞子 見て下さい。

沙耶香、不審げに窓に近づき、向こうを見る。

舞子 マンションです。

沙耶香 それがどうしたのよ。正面にマンションがあるのがいやなの？

舞子 いいえ。もっとよく見て下さい。

沙耶香 なによ……別に窓が見えるだけだけど……。

沙耶香、凝視している。

舞子、どこからか双眼鏡をとりだしてきて、沙耶香に渡す。

舞子 これで見て下さい。

沙耶香 どっから持ってきたの。

舞子 ハンズで買ったんです。

沙耶香 そういうことじゃなくて……言うだけ無駄だったわ。

沙耶香、双眼鏡を受け取り、正面の部屋をのぞく。

舞子 正面の部屋を見て下さい。

沙耶香 ……見てるわよ。住んでる人、今は留守のようね。明かりがついてないし……
リースのカーテンで中までは見えないし……何かおかしいところなんてある？

沙耶香、なにかないかと身を乗り出して凝視する。

舞子、沙耶香の後ろにまわり、驚かす。

舞子 こらっ！

沙耶香 うわっっ！ 何するのよ！

舞子 のぞいてたな！

沙耶香 のぞけて言ったのはあんたでしょ！

舞子 のぞきなんかしていいと思ってるのか？

沙耶香 わけわかんないこといわないでよ。

舞子 警察に突き出すぞ！

沙耶香 ……(怖くなって) 勘弁してよ。

帰ろうとする沙耶香の前に舞子が立ちふさがる。

沙耶香 (気味悪い)……。

舞子 そう言われたんです。

沙耶香 ？

舞子 あの部屋の人がそう言われちゃったんです。

沙耶香 ……あんた、覗いてたの？！

舞子 はい。

沙耶香 なんて女！ じゃあ覗いてたのがばれたわけ？

舞子 怒鳴り込まれちゃって。

沙耶香 当然よ。信じられない。

舞子 訴えないかわりに引越せって。

沙耶香 よく平気な顔してそんなこと言えるわね。

舞子 理由を言えってあなたがいうから。

沙耶香 普通、言わない。黙ってる。何事もなかった顔して引越す。

舞子 言えないようなことかな。

沙耶香 れっきとした犯罪でしょ。

舞子 好きな人を見ていたのが犯罪？

沙耶香 好きな人でもなんでもそれは犯罪で……(気づく)好きな人？

舞子 正面の部屋に住んでるんです。前から好きな人が……。

沙耶香 ……あんた、あたしがいくら他の物件を勧めても部屋さえ見ようとしなかったわよね。それはこじやなきやだめだったからでしょ。ここが空くのをまってたん

でしょ。最初からあの部屋を覗く気でここを借りたわね。

舞子 覗く気なんてなかったんです。

沙耶香 覗いたくせに。

舞子 でも、見えちゃっんだもの。

沙耶香 そう言うのは見えちゃうとは思わない。

舞子 見ていたかっただけなのに。

沙耶香 それをノゾキって言うの。

舞子 どうせならよくみたくないじゃないですか。顔がわからないよりわかったほうがうれしいじゃないですか。何を食べて、何を飲んで、何のテレビ見て、どんなことで笑うのか知りたいじゃないですか。

沙耶香 (双眼鏡を見て) それでハンズで買ったわけ？

舞子 結構高かった。

沙耶香 ……ついてゆけない。最初っからついてゆけなかったけど。

舞子 それよく見えるでしょ。高いだけのことはあるわよね。ただ向こうから見るとレンズが光っちゃうらしいの。それではれちゃったんです。

舞子、地図の残りを書き始める。

沙耶香、双眼鏡と舞子を見比べている。

沙耶香 ……

舞子 ……

沙耶香 ……よく警察さんにならなかったわね。

舞子 それだけは阻止しました。

沙耶香 それだけは褒めてあげる。大家に知れたらうちの会社、このマンションの扱い断られちゃうわよ。

舞子 警察に通報するって脅かされたんですけど、なんとかか。

沙耶香 その人、あんたのこと知ってたの？

舞子 いいえ。

沙耶香 じゃああんたの気持ちも知らなかったわけ？

舞子 私が勝手に思ってただけだから。

沙耶香 話したこともなかったの。

舞子 (双眼鏡をさして) それのおかげで話せました。でも最初の言葉は「出てこい、この野郎」でしたけど。

沙耶香 自業自得ね。

舞子 ……話さない方がよかった…あの人は私の中では最高の人だったんです。

沙耶香 相手だつて人間なんだから。勝手に理想の男のイメージを押し付けられたらかわいそうよ。

舞子 あの人は私の思ってる通りの人です。そうじゃなきゃいけないんです。

沙耶香 「出てこい、この野郎」が？

舞子 あの時はどうかしちやつてたんですよ。

沙耶香 どうかしてるのはあんたじゃない。

舞子 そうかしら。

舞子、また地図の残りを書き始める。

沙耶香、双眼鏡で正面の部屋と沙耶香を見比べる。

沙耶香 ……

舞子 ……

沙耶香 ……ねえ、ここから何が見えた？

舞子 いるいる。

沙耶香 いるいるって何よ。どういう人間だった？

舞子 男の人。

沙耶香 言いなさいよ。プライベートなことかも見えちゃうもの？

舞子 見えちゃったりします。

沙耶香 パンツ一枚で歩き回ってる姿なんか見ちゃったりしてがっかりしなかった？ 股間なんかぼりぼりかいてちゃってさ。女なんか連れ込んだりして。

沙耶香 興味津々といった感じで双眼鏡で正面の部屋を覗く。

舞子 ねえ、どうだったのよ。

沙耶香 興味あるんですか？

舞子 ……興味はないけどさ。好奇心はあるのよ。

沙耶香 彼には彼女がいたんです。

舞子 いたの？

沙耶香 ええ。

舞子 もしかしている見ちゃったわけだ。

沙耶香 見ちゃいました。

舞子 あれ、とかも？

沙耶香 あれもこれも。カーテンちゃんと閉めないから。

舞子 うわあ、きつい。シヨックだったでしょ？

沙耶香 別に。

舞子 シヨックだったくせに。

沙耶香 彼女がいるのは当然だから。

舞子 なんか自分で言い訳してない？ 自分自身を納得させてるだけなんじゃないの？

沙耶香 見るだけで満足してたんです。

舞子 相手に女がいれば嫉妬するのが当然でしょ。

沙耶香 嫉妬すれば私の負けです。

舞子 なにそれ、おかしいわよ。

沙耶香 おかしいですか。

舞子 おかしい。好きだったら一緒にいたいって思うのが当然でしょ。一緒に暮らした

沙耶香 今はその思ってるけど。その時はそうだったの。

舞子 だって嫌われるようなことしなきゃいいのに。あんたみたいな人をストー

カーっていうのね。

沙耶香 違います。だって誰にも迷惑かけてないもん。

舞子 相手は十分迷惑よ。だから怒鳴り込んできたんですよ。

沙耶香 私ならうれしいけどな。手だって振っちゃうのに。

舞子 ……

沙耶香 ……

舞子 ……

沙耶香 バカじゃないの？ 覗かれてうれしいわけじゃないでしょ。
舞子 知らないで覗かれてるのはいやだけど、覗かれてるってわかったらやりようがあるでしょ。

沙耶香 ……やりよう？

舞子 たえば…見せつけるとか。仲のいいところなんかを意識して見せちゃうんです。

沙耶香 それで二人の愛は燃えるわけ？

舞子 ええ。

沙耶香 SEXしてるところも見せちゃうわけ？

舞子 場合によっては。

沙耶香 世間ではそういうのを露出狂っていうの。知ってた？

舞子 でも幸せなんて誰かに意識してもらって初めて感じるものじゃないですか。

沙耶香 なに言ってるの。幸せは自分で感じるものよ。

舞子 そうでしょうか。

沙耶香 そうよ。そうに決まってる。

舞子 じゃあなんで人は結婚式をするんですか？ みんなに見てもらったためでしょ。見られることで幸せを実感しようとするんですよ。

沙耶香 言っておくけどね、結婚式をあげるのは義理と見栄のため。

舞子 披露宴だって見ってもらうためでしょ。

沙耶香 みんなホテルやレストランにだまされてるだけ。

舞子 いいえ。みんな快感だったことがわかってるんです。自分たちが会場にいる誰よりも幸せだって事が実感できるって、無意識にわかっているんです。祝福してもらいたいって言うのは建前で、本音はうらやましがらせたいのよ。

沙耶香 ……あなた、どんな人生歩んできたの？

舞子 例えば、あなたは私と英作と一緒に住んでるって考えて、嫉妬したりしませんでした？

沙耶香 あのね、するわけじゃないでしょ。

舞子 もし、あなたが英作のことが本当に好きでたまらないとしたらどうです？

沙耶香 でもここにいるのは、ほら…あれだから。

舞子 英作が行方不明になって、あなたはとっでも心配してるとしたらどうです？

沙耶香 生きてないとしても英作はここにいます。そんな部屋に私みたいな女が住んだら、どう思います？

舞子 死んだことを信じないわね。

沙耶香 死んだんです。

舞子 じゃあ部屋にすることを信じない。

沙耶香 あなただって信じたでしょ？

舞子 ……さあね。

沙耶香 愛してる男が自分以外の女と住んでるなんて、考えるだけでも気が狂いそうになりませんか？

舞子 本当に愛してればね。

舞子 でも逆から考えると、あなたが気が狂いそうになればなるほど、それを意識して二人は幸せを感じるんです。幸せなんて誰かの不幸の上に成り立っているものじゃない？

沙耶香 まあそつともいえるけどさ。

舞子 それがわかっているから、あなたは私と英作に嫉妬しないんじゃないんですか？

沙耶香 飛躍しすぎ。

舞子 私はそつでした。私が彼に打ち明けなかったのも、見るだけで満足しようとしたのも、行動を起こせば彼と彼女を幸せにするだけだったから…。

沙耶香 なんとなくわかるけど、ちょっと不気味かも。

舞子 バランスがとれてる間は楽しかったのに…。

沙耶香 相手が怒鳴り込んできたとき、なんて答えたの？ 聞かれたでしょ、覗いてた理由。

舞子 「あなたが好きだから」…。

沙耶香 ふ〜ん、それでバランスが崩れちゃったわけか。まあ恋愛にはそういう一面もあるかも知れない。でもね、あたしの場合には当てはまらないわね。どっちにしたってあたしは英作のことで嫉妬なんかしないもん。

舞子 あなたはそういう女でした。英作もつまらないって。

沙耶香 悪かったわね。

舞子 英作だって本当はあなたに嫉妬して欲しかったのよ。きっと私と仲良くすればあなたが焼きもちやうと思つてこの部屋に私といることにしたのよ。

沙耶香 そりゃ残念だったわね。

舞子 作戦は失敗だったみたい。

沙耶香 いるのかいないのかわかんないような男に用はないの。くやしかったら半透明にでもなつてみなよ。スケルトンボディで前よりもてるかもよ。

舞子 ……つまらない。

沙耶香 うるさいわね。

舞子 あっ！

沙耶香 (沙耶香を指し) 英作があなたの首絞めてる。

舞子 ……

沙耶香 ……

舞子 本人に聞いてみないと。
沙耶香 聞いてよ。

舞子 (英作の場所を教えて) 御自分でどうぞ。
沙耶香 ……英作、この人についてってあげてよ。寂しい人みたいだからさあ。気が合っ

んでしょ？ あんたも死んでから性格丸くなったみたいだし。あんたがここにいたってな〜んもいいことなんて……。

舞子 (遮って) 英作、もついませんよ。

沙耶香 どこいったの？

舞子 トイレじゃないですか。

沙耶香 あんた本当に……

沙耶香の携帯電話が鳴る。

あたりは薄暗くなってきた。

沙耶香 (電話へ) もしもし……ええ、もう終わる。……いいわよ。じゃあすぐ行くから。

沙耶香、電話を切る。

舞子 今日もデート？

沙耶香 だからもたもたしてられないわけ。あんたもさ、もっと全うな恋愛すれば。もう、のぞきなんかやめなさいよ。

沙耶香、舞子に双眼鏡を返そうとする。

舞子 それ、記念に差し上げます。

沙耶香 なんの記念？

舞子 あなたと私の。

沙耶香 覗きに露出癖にレズ？ あんたも大変ね。

舞子 楽しかったです。

沙耶香 楽しかったって、それどういう意味よ。

舞子 いろいろ。

沙耶香 いろいろ？

舞子 じゃあ。

舞子が行こうとするのを沙耶香が呼び止める。

沙耶香 ちよつと。

舞子 はい。

沙耶香 ……英作、いないんですよ。本当は見えないんですよ。

舞子 ええ、いないから見えませんか。

沙耶香 やっぱり！
舞子 今、トイレ行ってるから。

沙耶香 またあ。最後までらいたい本当のこと言いなさいよ。英作は死んでないんですよ？
舞子 死んでいません……もうこの世に。

沙耶香 ……。

舞子 そうだ、これ。

舞子、沙耶香にメモを渡す。

舞子 本当は私、ここに越してくる前の部屋に戻るんです。

沙耶香 まだ空いてたんだ前の部屋。

舞子 ずっと借りたままだったから。

沙耶香 借りてたの？ こことふたつ？

舞子 一度遊びに来て下さい。その地図でわかりますよね。

沙耶香 (メモを見て) ……ちよつとこれ、このマンションって……！！。

そこに書かれていたのは正面のマンションの地図と住所。

沙耶香、驚いて正面のマンションを見て、舞子を見る。

舞子 ええ。301号です。覗いてくれれば手を振りますよ。

沙耶香 ……301！

沙耶香、もう一度正面の部屋を見る。

その間に舞子はいなくなる。

沙耶香 どういうことよ！

沙耶香が舞子の方を向いたときにはもう誰もいない。

沙耶香 ……なんであんたの住んでた部屋がああ……。

もう一度正面の部屋を見る。

ぼう然としている沙耶香、事実をもう一度確認してゆく。

沙耶香、今までの舞子の話とこの事実が結びつく。

沙耶香 ……覗いていたのはこの部屋だったりして……見られてたの？……ハハハ。そんな……！

沙耶香、携帯電話で警察に連絡しようとする。

沙耶香 もしもし……あの………いえ、何でもありません。……勘違いでした。ええ、本
当になにも。……すみません。

沙耶香、電話を切る。

座り込んでなんとか考えをまとめようとする沙耶香。

沙耶香 ……そうよ、301がああの部屋だって決まったわけじゃないし……。そうか、ま
た脅かそうとしたのよ。……やられた。まともに相手しちゃだめなのよ。(自分に)
あゝあ、なにうるたえてんだか、あたし。

沙耶香、部屋を見回す。

沙耶香 ……そうよね。見えるなんておかしいわよ……。

沙耶香、部屋を出てゆくが、何かを思い出したようにすぐに戻ってくる。
窓に近づいた沙耶香、双眼鏡で正面の部屋を見てみる。
そこには手を振っている舞子の姿が……。

沙耶香 !

蒼白となった沙耶香がその場に座り込む。
暗転。

39

照明がつき、出演者の挨拶が終わる。
出演者がはけると同時に、照明、音楽もフェードアウト。
すると、暗い客席にトイレの水が流れる音がかすかに響く。

【おしま】

※著作権は作者・福田卓郎にあります。上演には許可が必要です。
無断複製、複写を禁じます。

Dotool (ドットール) TEL 03・35557・98000
〒176・0012 東京都練馬区豊玉北1-3-21 森田館3F
<http://do-mo.com/> dotool@do-mo.com